

DX経営塾の第1期生が挑む社内改革～その2～

Excelからの脱却とクラウド化に着手

天竜組の山田克巳社長は、本誌の特集記事を読んだことをきっかけにDX経営塾に参加。社内で勤怠管理のクラウド化計画を進行中だったため、ちょうどいいタイミングでもあったという。そんな山田氏に、受講の感想や、塾での学びを現在どう生かしているのか伺った。

経営革新の方向性

	現在	2025年	2030年
	どんぶり経営からの脱却	経営基盤のさらなる強化	地域モデル企業へと変革
市場・社会でのポジション	<ul style="list-style-type: none"> 特定企業からの厚い信頼 中規模工事の安定した施工力 	<ul style="list-style-type: none"> 複数企業からの信頼 より高いレベルの工事に対応する施工力 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県、浜松市を代表する企業 静岡県で他社が真似したい建設業No.1
経営面	<ul style="list-style-type: none"> 利益が出る企業への経営体質改善 経営指針作りによる方向性の言語化 	<ul style="list-style-type: none"> データによる判断と仕組みによる業務遂行による、安定した経営基盤の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の事業収益基盤構築 社会、顧客、従業員とその家族に寄り合い、笑顔あふれる環境を整えている 事業承継の準備が完了している
組織・人事づくり	<ul style="list-style-type: none"> 行動指針10カ条による基本行動の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 明文化された人事評価制度の構築 さらなる技術力の高度化 	<ul style="list-style-type: none"> 全力を尽くした人が報われる組織 多様な人材が生き生きと働く企業 県下随一の技術力/社会人としての高い意識
システム環境	<ul style="list-style-type: none"> 紙、Excelでの業務が主体 	<ul style="list-style-type: none"> システムでの業務が主体 データの活用環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルの多面的な活用 事業価値の向上・創造

— 受講前の社内の課題は？

以前はExcel（エクセル）を中心に社内管理を行っていましたが、同じ数字を毎回シートに入力しなければならぬなど、かなり非効率な面がありました。また、日報が手書きなので集計業務に手間がかかったことや、請求書の確認業務の遅れ、会議の開始時間の遅れ、サーバー内のデータや図面を外出先から閲覧できないなど、業務の無駄や不便さを感じていました。

— 塾で学びたかったことは？

まずはDXとは何なのか知りたかったです。最初はITとの違いが分からず、既に社内LANをつなげてあるので、それで十分ではないかと思っていました。でも実際はそうではないことが分かり、当面はExcelから脱却する方法を学ぼうと考えました。

— 受講した感想は？

座学だけでなくいろいろな体験

ができたので、3時間の講義が毎回あっという間でした。ゲスト講師の講義も組み込まれていて、特に第1講目で「2025年の崖」の話聞いたときには、大きな衝撃を受けました。

また、当社ではこれまでExcelとWord（ワード）とOutlook（アウトルック）しか使っていなかったのですが、例えばMicrosoft365を使いこなせばすごく便利になると知り、既存ソフトの活用面でか

株式会社 天竜組

DX塾 第1期生

代表取締役 山田克巳

1953年に山田組として人材派遣業を始め、1971年に法人化して株式会社天竜組に社名変更。現在は民間企業の営繕工事や公共工事を中心に総合建設業を営むほか、ウォーターサーバー事業も展開する。従業員数は18人。2001年にISO9001認証取得。山田氏は2019年に社長に就任。この4年間ツイッターを毎日更新し、フォロワー数は約5900人。

●浜松市東区薬師町

わが社にとってのDX

急がず、焦らず、みんなで作り上げるDX。
現状の課題を一つずつ解決していきます。

DX経営戦略テーマ

寄り添い全力を尽くす
その先に見える笑顔のために



なり遅れをとっている実感しました。

— 印象に残っている講義は？

DXを進めていくと、必ず社内に抵抗勢力（変わりたくない人）が現れるという話が印象的でした。DXは社長の一方的な押し付けではなく、話し合いを通じて従業員の自発的な気づきを促すことが大切です。そのため当社では、「急がず、焦らず、みんなで作り上げるDX」をスローガンに掲げて取り組むことにしました。

また、効率化によって得た可処分時間を活用し、社内を変え続けることがDXの目的なので、今後は従業員の資格取得などのスキリングや人事評価の改正にも取り組む必要があると感じました。

— 受講後の取り組みは？

①従業員とのDXの情報共有

私の知識ばかりが先行しないように、月2回の定例会議でDXについての情報を提供したり、原価管理システムやkintoneのデモを行ったりして、従業員が興味を抱くよう心がけています。

②原価管理システムのクラウド化

これまで建設業向けの原価管理システムを使っていましたが、今後はそのクラウド版に変更し、日報管理のデジタル化に向けた準備も進めています。

③Microsoft365の導入

今年中にMicrosoft365を導入予定。導入後は現場に出ている従業員のスケジュール管理や情報共有、リモート会議が円滑にできるようになります。

④積算ソフトのクラウド化

公共工事の積算は、これまで私一人がソフトを使って担当していましたが、先々を見据えてスキルを継承・共有するために、ソフトをクラウド版に切り替えました。現在はクラウド上で一人の従業員とソフトを共有し、指導しながら積算を行っています。

— 今後の目標は？

DX経営塾を受講して、私自身の経営やデジタル化に対する意識が大きく変わりました。社内の現状の問題点を洗い出し、優先順位を決めて、DXで解決していく道筋が見えてきたので、今後はそれを一つずつ実現していきます。